



世界の文学者

鼎 談 についで

1959. 3. 1

加藤 周一
きき手

式場 隆三郎
岡山 巖

式場 邸にて

写真・口述 明

医者の作家

式場 今度の会議に出た中で、医者はあんなのほかに何人かいましたか。

加藤 私に知る限りではいりませんでした。式場 大体どうでしょうか、外国では、ことにフランスのことを聞きたいのですけれども、昔から医者の文学者というものは多いのですか。日本では、大体世間の見る目が、医者は眼があり、道楽者が多いから、歌をよみ俳句をよみ、小説を書く人も出たということ

で、医者というものは裕福で、道楽ができて勝手なことができたから、医者の中から文学者がたくさん出たというふうには批評する人が多いわけですね。しかし戦後のようすを見ると、決してそんなものではなくて、医者ももっとほんとうの純粋な文学者と同じ立場で、医学とは全然関連のない作家活動というものをしている。あなたもその一人であるわけですが、フランスあたりはどうでしょうか。

加藤 やっぱり相当ありますね。Groupe mental des Psychiatres-Médecins(G. E. M.)

りますけれども、そういう会談でやっているという態度の人と非常に混同されていると僕は思うのですが。

加藤 もっと出てほしいと思いますね。私は医者と文学というものはちよっと関係があるのじゃないかと思うのです。徳川時代から医者が文学者という人が多かったです。徳川時代は身分的な差が非常に強かったですから、さむらいであれば、さむらいの中で苦勞したわけですね。そして下級武士なら下級武士の間で交き合って、上の武士との交き合いはない。それが一つと、それから現在でもそうですが、大きな企業体、会社なら会社、官庁なら官庁で働いている人たちは、その組織の中に巻き込まれてくる。その組織の外との接触というものがなくなっているわけですね。そういう意味では、医者は大名でも診察するし、隣のばあさんが病気になるわけ、つまり上から下まで関係する。その医者の立場というものが、割合に社会の身分的な分化と比較して、自由にならなから下まで比較し、接触できる。特定の巨大な組織の中に巻き込まれて、その組織の考えを押しつけるというのではなくて、少し離れて見ている。要するに身分的な社会からはみ出して、比較的自由にぐるぐる回っているという、独

立的なものでしょう。英語でいえば、社会に對して、"detached"、つまりある距離をもつてものを見る。それはそれなりの制約も持っているけれども、しかし少なくとも一定の"detachment"、というか、一定の距離を置いてものを見なければなりません。近距離で見えない。近距離で見えない人があまりそばで絵を見る

と、油がこてこてしているというしか見えません。女か男かわからない。一定の距離に離れなければならぬ。その距離は一般の人々とはとりにくい。それが医者の場合にはできやうということですが、大きな原因ではないかと思うのです。それからもう一つ。しかしそういう意味では、たとえば弁護士なども自由な知的な職業で、医者に似ていると言ってみてもいいことはないと思えます。しかし、弁護士はやっぱり人間関係を扱うのであるが、その人間関係を法律的な観点から扱うので、法律的な観点の背後には権利義務がある。で、そういうことを職業的に扱いはなれていくと、やっぱりどうしようもない職業の中での接近の仕方というものが人間にしみついていく。それが文学を助けるでしょう。しかし医者の場合には全然違う。法律家は、夫婦げんかが起っても、この場合調停でどこまでいくかというふうで考える傾向がある。医者はそういうことでなくいいということが一

つの理由じゃないかと思うのです。医者と文学には一種の必然的な関係があるようです。ロシアでも、イギリスでも、フランスでも、今の日本でも、明治時代の日本でも、医者から文学者が出るという必然性がある。暇だから出るということではないと思うのです。

医者と文学者と両立する

式場 加藤さんはどうですか、医者もやっていくわけですか。医者と文学、両方やりますか。

加藤 やっていききたいと思えます。

式場 僕は文学をやりたいと、医者になんたたくなくて何とかして文学で生涯を過ごそうと思った。しかし、親がどうしても医者になれ、職業として文学は食えるわけがないということ、やむをえず医者にされたわけですね。それでそのときに考えたことは、一番文学に近い科目は何だろうかということ、精神科を避けたわけですね。初めはですからいやいやながらやっていきました。しかしやってみると、精神科というものは、その方で文学と結びつくこともあるし、美術にも幾分関連があるということ、今まで精神科をやってきたわけです。いまだに医者というものは二の次で、文学、芸術で暮らしたい、それでいい仕事をしたいという気持ちのりのけられない。だから



五月の臨時作家会議に出席する加藤氏

逆に医者は遠慮するというよりも、医者の方が二の次ようになって、それが長い間僕を苦しめました。今はなぜ芸術の仕事をもっとやらなかったらと思うています。医者の実務が多過ぎるということですね。

岡山 しかしあなたの場合に、精神病学をやったことはプラスしていますね。

式場 製が聞かなかったものですか、そ

れじゃおつきあいでやろうという気持ちになって、選ぶなら精神医学しかないと思った。ところが私自身の立場からいうと、芸術の面では、あまり病的でないものが好きなんです。しかし病的なことがわかりすぎて、それがはなにつくからいけないのかもしれない。病的でない傾向のものに傾いているわけです。

加藤 でもゴッホとか、ロートレック、病的なものばかりおやりになったのは？

式場 ああいう人のことをやると、病的なところがあるからひかれたと思われるかもしれないけれども、あの人たちの病的なものにはひかれなかったということですね。ロートレックの場合には、アル中であれだけ苦しんだけれども、彼の絵画からはそういうことは感じられないと思うのですよ。ゴッホはなおそうです。

編集者 こんど会議に出られて、アフリカの黒人とか、アラビヤ人とかの作家のいい作品に接して、それをもらってくるということはできなかったのですか。

加藤 それはたくさんは並べてあるのですけれども、同じくのコピーがたたくさんないからもらってくるわけにはゆかなかった。

バステルナークのこと

式場 バステルナークの問題なんかは、別

式場 僕ら見ると、どうも政治的なねらいがあるような気がするのです。そうするとあの人にとっては気の毒で、むしろそっとしておいた方が幸せではないかと思うのです。

加藤 ノーベル賞そのものがとつびな感じがしますね。そういう政治的な反響を当然期待したわけでしょう。それを知っていたということがある以上、ノーベル賞の中にも政治的要素が加わっていたと見られても仕方がないのです。ただしノーベル賞を与える側の政治的な動機、それに対するソ連の表だったバステルナークという面だけでなく、バステルナークが前からソ連の中で読まれていたということ、それから読む人が出てきているということ、それから読んでもつかまるということではないわけだということがもう一つの大事な点じゃないかと思うのです。つまりソビエットの人たちの気持の歴史的な動きが、革命後同じ状態にあるのではなくて、だんだん変わってきているという一つの兆候としてバステルナークが読まれていくということを見るのが大事だと思うのです。

式場 中国にはああいう人はいないのですか。

加藤 わかりませんがね。中国についてはわかりません。いなかもしれません。ソ連の



医者の作家出現を希望する式場氏(向って右)

のことでしょうけれども、あれはどういうふうにお考えですか。日本人の方では、ともかくノーベル賞をもらったというので大騒ぎをしたが、もっと本質的な問題で、ソビエットにおける作家としてのあの人々の立場とか、その苦しみなどをと知りた。日本ではともかくノーベル賞というのが非常にクローズ・アップされている。僕らから見ると、あの人長い間ソビエットから離れない、発表は自由にできなかったかもしれないが、亡命というか、どこかに行かないで、こつこつあやってきたという点を尊敬しているのですけれども、あれはどういうことなんでしょう。

加藤 僕がソビエットを離れてからああいう事件が起ったものだから、あまりあの事件に対する反応はわからないのです。バステルナークというのは、もちろん孤立してやっていたでしょうけれども、とにかくこつこつやっていたということ、……しかし、孤立してもこつこつやっていた余地があるということでも、それからもう一つ、彼はソ連でも読まれていて、それからもう一つ、それはソ連とにかく彼を読むような空気が、それを評価するような層、人々がソ連の中にもだんだん出てきているということでしょうね。そういうことに対して、上からだんだんそういうことを考慮に入れながら、今までのやり

方を少しずつ動かしていくということが、広い意味で非スターリン化現象と言って言えないことにはないと思うのです。非スターリン化現象というものは一日で急にできたことではないし、ソ連の中のいろいろな激しい体制が急にゆるんでくるということでもないの、つまりゆるむことを求める空気が次第に起つてきているということに対して、ゆるめる上の方が少しおくられている、そして下の方が変わってきているというのが大体的な状況じゃないかと思うのです。今のところは、バステルナークはなかなかおもしろいと思っっている人が相当に多いのではないか。しかしそれを大きな声で天下に公言する、宣言する時期ではないということになるでしょう。もしそういうことをすれば、相当強い反応、批判を受けられる。ノーベル賞は、大きな声でそれを言うわけですから、強い反応が出た。

式場 あの人は印刷はされなかったけれども、購買版が何かで刷ったものを読んでいる人がかなりいるのではないか。それが偶然ノーベル賞ということでは世界中の話題になった。あのくればどうなんですか。前から認められるべき人であったのですか、突如として選ばれたのですか。

加藤 ノーベル賞そのものはどうもわかりません。

見られるという物質的条件が整って、しかる後に、いつもあまりに写真的な絵ではつまらないが、ほかの国ではどうもそうではないように思うが、どつちがいろいろということになつてしまつて、それでだんだん考へが進んでくるわけでしょう。しかし国をあげてダマを作つて、何かなんでもこの二、三年のうちに食糧を増産して飢え死にをやめようとか、まだ衣類や何かはがまんしていろいろということでも食べ物が第一だという段階ですから、そういう段階では油絵の様式上の問題まで人の関心が向いてこなくてもしょうがないですね。

文学者の社会的地位

式場 今度の会談では、たとえば文学者の社会的な地位ということになると、そのためには原稿料とか、印税という問題があるでしょう。これは国によつて違つていようし、おれの方はこのくらいだとかいう問題は出ませんか。

加藤 それは会談外として出ましたけれどもね。

式場 私の聞きたいのは、つまり生活の問題もあるが、文学の普及度といふか、普及度とともに高さといふものに關連してかと思つて、その中にはかなり高い人もあり、深みのある人もある。アジア・

アフリカ会談の中では日本はどのくらい位置でしよう。

加藤 ソビエットと中国は共産主義だから違つていふ。共産主義でない国の中では日本は圧倒的にいい。それは問題にならないでしようね。つまり本を

読む教育を受けた人の数が多からぬ。一般には商売にならないですよ、文官の人が多からぬ。インドの場合には文官だけではなくて、たくさん英語がありますから、ますます一つの言葉に対する読者が少なくなつていふ。

式場 しかし共産主義の国が保護されればたくさん出るのじゃないですか。

美しい共産主義の作家

加藤 それは共産主義の国はいいですね。ただし吉川英治とか、そういう人はよくないでしようけれども、しかしわれわれよりはいいでしようね。詩人が詩を書くだけで暮らしていけるという国は、世界でソ連だけしかあ

りません。日本では詩だけでは暮せないので、それが暮せるのはロシアだけです。そして作家の家というものが黒海のとおりか何かにあつて、そこで詩を書くといふことで、半年とか、一年とかたまたま行つて、非常に豪奢といふか快適なところで静かに執筆するわけですね。

式場 フランスはどうですか、詩人は。

加藤 それはフランスでもだめです。詩だけで暮せる国はありません。アメリカといふこともそうではない。血洗ひなら暮せるけれども詩では暮せない。ソ連は唯一の国です。

式場 詩人は少ないでしよう。

加藤 多いですよ。たとえばジョージヤといふ小さな国で、ジョージヤ作家同盟というものがある、そこに行くとき詩が書かなくてもいい人がたくさん任んでいまして、式場 それは国家でこれだけ書けとかいわれて、その結果書かなくてもかまわないのですか。

死

大野 豊

一瞬

明日はくずれ落ちた
ちよん切れた頭と胴体は
心臓にかかはりなく
感覚を通して
愛の岸辺をさまよひ
思考を断ち切られた
鈍重な脳天に灯りをともし
その眼打つ感傷に
真白い肢体をおもつた
何処への旅立ちであらうか
もう誰もとこかない世界で

一瞬

無色透明の海面に
新しいドラマが開演する

(宇野浩二)

加藤 かまわないわけですが、しかし二年に一本ぐらゐは本を出した方がいらしいですね。それは国家といつても作家同盟がやつていられるわけですね。国営の出版社がたくさんある。そこから自動的に一定の額が作家同盟に行くわけですね。それが大きい。ですからソ連の作家同盟といふものは経済力がとてもあるのですよ。

式場 谷崎さんといふものは、原稿料は世界的な水準ぐらゐは取つていまして、ソ連は高いですが、原稿料といふものはあまりみんな高くはないですね。イギリスだの、フランスだのでも、雑誌の原稿料といふものは安いですが、そして本ですね、印税で大体いける。ただ大部分は本がそれほどたくさん売れないから、結局金にはならないわけですね。ほとんどすべての作家といふものは副業で暮らしている、あるいはラジオと映画です。

加藤 それはあります。しかし待遇は一律に受けるわけですね。

式場 そうすると、日本のいわゆる文壇の大御所みたいな人は相当の金を取つていられる。だから大へんなものです。谷崎の原稿料は、今一枚何万円もするといふ噂ですからね。印税はまた別だつたらうか。

加藤 養生屋の書いた本を読んだら、詩人は何枚といふわけで、最高は一本一万円とか二万円するといふわけですね。二万円といふ人はなかなかない。大抵一、二万円、それも順番でなかなかまわつてこない。養生屋も時では食えないから小説家になつてしまつたのですかね。歌の場合はどうですか。中

式場 歌壇では、綜合雑誌の歌一首百円か



シュヴァイツァー博士（左）と高橋大蔵

シュヴァイツァー 博士とよもに

高橋 功

対談

式場 隆三郎

昭和38年9月14日銀座グロリアにて

シュヴァイツァー博士との出会い
 式場 高橋さんのシュヴァイツァー博士との交遊は、いつから始まったのですか。
 高橋 ちょうど十年になります。
 式場 ほんまに十年ですか。
 高橋 私は第二次世界大戦で、八年間ぶっつけの応召だったので、最初はジャマを振り出しにフィリピン、それからソロンからガダルカナルに来てやられましたね、それで駆逐艦に助けられて、引退してラバウルですが、ニューグレン島ですね、それからまたフィリピンにかえって、シンガポールからマレーを上りましてビルマに行って、ビルマからミートカーナ、それから雲南作戦にまわされて、それから山の中に入りまして、パンコッタまで来たときに終戦になりました、蘭国主力がサイゴンにおりましたので、サイゴンまでやっとなどりついで、戦争後は仏印というわけで、南方のあちこち歩いているうちに、南方のみじめさといいますが、東南アジアの後進国の状態を知ってきたわけです。それで復員して、あの地理的条件が似たアフリカでシュヴァイツァーが大へんな仕事を何十年にもわたってやっ

百五十円、茂吉とか、飛び抜けてえらいところは、歌壇内では五百円ぐらい、雑誌や新聞で一言一千円ぐらいでしょう。
 加藤 そんなですか。それじゃ大へんですね、五十首作って五千円ですね。
 岡山 原稿用紙一枚が歌一首に相当するらしいですね。
 式場 歌だけで食っているという人は少ないのじゃないですか。佐々木信綱とか、窪田空穂でもだめですか。
 岡山 だめですね。茂吉でもだめですよ。雑誌をやっている人は、ごく几帳面にやって、社友をふやして、それで食っているという人は二、三ありますね。社友が千人以上あればぜいたくしなければやっていけるのじゃないのですかね。そういう人の多数者は、別にえらくも何ともない。経営がうまくいかなんで

GEMの国際会議

式場 ヨーロッパはそれからどこが一番長くいらっしやいましたか。
 加藤 ウィーンですね。
 式場 ウィーンはどんな状態ですか。例の四ヶ国撤退しても、気分はまだベルリンほどではないにしても、名残りはあるのですか。
 加藤 全然ありません。非常に気持ちよくな

りました。

式場 戦災は受けなかったのですか。

加藤 ドイツほどには受けなければ、かなり受けていますね。しかし占領が済んでからよく復興しました。

式場 こんど私もしばらくぶりであそこへ行こうと思っていますがね。

加藤 今度の例のGEMの国際会議というものは、五月にあるはずだと思う。そして今度われわれの方から参加して、そして一度顔を出しておいた方がいいのじゃないかと思うのです。それで今度バリに行ったときに、国際組織の会長さんにお話したときに、あとで手紙か何かで先生のところにお送りしますが、日本からも一年に少なくとも一人は、その会議にでただくようにしたらと思えます。国際会議にこちらも加盟しているのだから代表を送りたい、やるのだったら今だと思えます。だから前例を作ります、毎年一人ずつ会議に出席するだけでなく、外国の医学書も読めますし、そういう道を聞いておいた方がいいと思うのです。
 式場 われわれのクラブの中にどれかいますから、そういう使命を持って行ってもらう方がいいですね。それではきょうはこの辺で、どうもありがとうございました。



高橋氏(左)と式場氏

の教会の牧師になっていますね。それから、そのころすでに有名な、使徒パウロの研究ができていきなり、それで、イニス研究、それからパッパの研究もそのころやったのです。そういう中で、三十歳から医学のコースに入っているのですね。三十七歳までかかって医学校に行った。そのときの博士論文は「イニスの精神病学批判」ですか、あれでもって医学博士になった。それから熱帯学を学んで、一九一三年にアフリカに渡った。これは患者の医療のためなのです。この際申し上げておきますが、日本に誤り伝えられているのは、彼が牧師であるから向こうへ行つてキリスト教の普及をしたと思われるわけですが、彼はプロテスタントでしかも非常に進歩的でした。

で、フランスのカトリックとちよつと相入れないのです。それで渡航審議会のようなものが向こうにもあるでしょう。そこでそれに引っかけた、黒人に対してプロテスタントの教えをしないならばという条件で向こうへ行っているのです。もっぱら医療の奉仕のために行っているわけですね。

式場 最初はキリスト教の普及のために行ったようにいわれていますね。

高橋 その点はちよつと間違っているようにとられているのです。それで一九一三年からランパレーネに生活をしているのです。

式場 とにかくこんど先生いらっしやうて、こつちでいろいろ読んだり写真を見たりしたのと同じくみての違ひがありましたか。

高橋 私は行く前にいろいろいろいろな予備知識をしこんでいたのです。有名な写真集がありますね。それからちよつとベルリンでオスカイ賞をもらった記録映画があるので、それを見ていきましたし、シュヴァイツナーに関するあらゆる予備知識を持っていたから、向こうへ行つてちよつとびっくりしたということ、別に意外のことはございませんでした。

文明病以外のあらゆる病気が

式場 病人の種類はどんなものですか。

高橋 日本にある病気は大いにあるのです。ないのはいわゆる文明病といいますが、ガン、高血圧、動脈硬化、ああいうものはありません。

式場 結核はどうですか。

高橋 結核はだんだんと多くなっていますね。やっぱり文明が進んでくるからだんだん多くなるのですね。それから日本になくなって向こうに多いのはマラリヤ、レプトラ……

式場 皮膚病は？

高橋 皮膚病は象皮膚病というのですか、あれはやっぱり多いですね。それからいわゆる疥癬病、あれはほとんどないですね。あれは政府がコントロールしているのです。そのために見つけると早く治療してしまつて……ですから私の病院ではほとんど見られないのです。

式場 性病はどうですか。

高橋 性病はものすごく多いです。ちよつと日本の軍隊はなやかなりしときの状態です。ですから三十年、五十年はおくれているのです。

式場 梅毒と淋病はどちらが多いのですか。

高橋 淋病が多いのです。

式場 感染源はどこでしょうか。

高橋 私もよくわからないのですが、大変な数です。病感が少ないのじゃないですか。淋病なんか普通だと思つているのです。どうも病感が少ないのか、症状が軽いのか、どうも何とも思つていないのですよ。ペニシリンがよく効いて、三日ぐらいで癒つてしまふ。それでレプトラなんかよりも性病が今のところ大へんだと考えているわけです。それからまあ向こうでもものすごく多いのはヘルペス、これの手術は一週間に十五人ぐらいやるのじゃないですか。ですから私ちよつと統計をとつてみたのですが、全手術が一年に五百何例あつて、そのうち三百何例はヘルペスです。

式場 そうですか、女もありますか。

高橋 女もありますけれど、男が多い。

式場 いくつぐらいのことが多いのですか。

高橋 青年から中年が非常に多い。それで私シュヴァイツナーに、どうして中年に多いのかと聞いたのです。したら、小さいときしないで放つておくからというのですが、小

さいときにはあまりないのです。ヘルペス、出べそというのですか、これはあつて美男子、美人の象徴だといふのですが、子供のときにはないので、私は助平といわれるかもしれないけれども、何かセックスに関係あるんじゃないかと思つているのだけれども、シュヴァイツナーはそうは考えていない。どちら小さいときに放つていたから、なんだと簡単にいふはつていけるけれども、私はどうやらそれと関係ありやしないかと思つているわけです。

女の相場は五万円

式場 それで婦人科の病気はどうですか。

高橋 向こうでは一夫多妻なんです。それで女は金で買うのですから物ですよ。今相場が大体五万円だそうですが、もうすこし上等になると十万円からです。それも太っているのが上等なんです。(笑)

式場 色の黒い方が美人なんですか。(笑)

高橋 黒いも黒いも最上級の黒さですから、黒の区別がないのですよ。(笑)

式場 そうすると色よりも体格が美人の標準をきめるわけですね。

高橋 一夫多妻ですね。最初のアラウはこ

ういいますよ。私が妊娠すると亭主が困る、私が病気をすると困るから第二夫人がいるので、私も助かるし、亭主も助かる、自分の亭主は金もあるし、体力もあるし……、そうして二人も三人も女を持つていることをかえって誇りにしている。その間に嫉妬とか高貴な恋愛感情というものは無いようですね。これからはあるかもしれないけれども、今はないですね。

式場 産婆みたいのもおるのですか。

高橋 おります。黒人の中にもそういう取りあげばあさん式のものがあるわけですよ。私の方でもスイスから助産婦が来ておられますが、そういうふうで、男は第二、第三夫人をもらう。そうすると、男の方では金がなくて女をめぐれないのがずいぶんいるわけですよ。そういうのが町の女ほどではないけれども、いかがわしい女がいるらしいのです。それが伝染病になるというふうを考えられるんですね。やっぱり性病というものはこれからますます多くなるのです。

式場 そうするとわれわれが考えている血族結婚が多くなるだろうというのはあまり問題ではないのです。

高橋 ただ種族が違ふところの結婚ではト

ラブルがあります。このごろの若い連中は恋愛感情があつて、好きな女と一緒にいたい、そうすると種族が違ふために親たちが許さないのです。

式場 結婚の年令はどうですか。

高橋 私はやっぱり早婚だと思えますね。十五歳で子供を生んだ女もいますから。それから老人病というのですか、これは老人がなれないのだから対象にはなりませんね。つまり早く精根が尽きてしまう。また助平といわれるかもしれないけれども、夜の時間が長くてはかになく娛樂がないから、セックスの消費率が多い。

式場 そのために早くふけてしまうのです。

高橋 五十歳以上というのはないのじゃないですか。それで老人病というモダンな医学の対象にはならないかもしれないですね。

式場 文化が進むと早老になる危険もあるが、文化があまり低いとまた早老を招くのです。

高橋 それに若い人たちは健康状態がいいけれども、老人を大切にしないのかどうか、年寄になると衰えが早いのです。

式場 それが五十で死ぬ原因のひとつでも

ありましよう。それで病院は今医者は何人でやっていますか。

高橋 シュヴァイツァーのほかに四人、看護婦、これは白人で十人ですね。それから世務関係が男女やっぱり十人くらい。

式場 入院患者は、どのくらいですか。

高橋 本院三百五十、それから本院から七



ランバレーキにて高橋氏とたわむれるジャンバシ

百メートルぐら離れたジャンダルの中にノベル賞金で建てました病舎。

式場 それだけを別にやっているのですか。

高橋 一応係りはあるわけですよ。

式場 誰はどうですか、多いのですか。

高橋 多いですね、ベッドが二百ほどほとんど一ぱいでしよう。本院とあわせて、三百で

式場 病院の運営はどういうふうをやっているのですか。患者からは一文も金はとらぬわけですね。

高橋 全然とらない。しかし中には感心なものがあって、百フランとか千フランとか、なかに二千フランぐらも出す人もあるようですよ。それからニワトリをお礼に持ってきたり、バナナをもってきたり……

式場 わかしの医者のようなものですね。

高橋 ええそう。ですから古い日本のああいう制度を思い出すわけです。非常に美しい情景です。

式場 それはある意味からいえば、医療の理想郷ですね。

高橋 そうですよ。

式場 それでシュヴァイツァーは自分の印税なり原稿料なりレコードの吹き込み料をすべて出しているということですが、それでは今は足りないでしょう。

高橋 もちろん足りないでしょう。とにかく患者だけでも五百、黒人の勤務が診療関係が五十、その他の庶務関係が五十くらい、そうすると六百人以上の大世帯です。それがみんな入院料はただ、くすり代はただですから莫大な金がある。食糧だけでも大へんなもの

ある意味では医療の理想郷

です。そういう経理方面のことは私たちは全然知らないわけです。ただ私の感ずるところ、世界各国からの寄付があることだけは事実です。ただ金銭とか、そういう経理面には全然想像もつかない。

式場 国家的な補助はないのですか。

高橋 全然ないのです。それはシュヴァイツァーが嫌いなことです。国家とか、あるいはロックフェラー財団とか、あるいは何かからもらってそれに報告をすることは嫌いなんです。全然ワシントンですよ、いつてしまえば、自分の思うなりに経営しなければ気がすまない。

式場 そういうことは聞いておたのですが、それはそれでなければなりませんね。援助をうければ義務や制限もありましょうから。パトロンはあるのでしょうか、いい意味で。

高橋 非常にパトロンがついているということは私も想像できます。たとえばイギリスのエリザベス女王、オランダの皇太后、それからベルサイユ皇太后、それからモナコのグレース・ケリーなど……

式場 そうでしょうね。そうした強力で理解あるパトロンがいるから自由に治療もでき

るのでしょう。それはかたくりしい公的援助より気はらくですね。

高橋 そうしたパトロンができるというのは、シュヴァイツァーに徳があるといえますか、人徳のしからしめるところでですね。だから勢いそれに関連して、シュヴァイツァーの個人的魅力がなくなったあとはどうなるか、ということもやっぱり話題になるわけですね。

老いをしらぬシュヴァイツァー博士

式場 そういうわけですね。亡くなったらどうなるか。今おいくつですか。

高橋 八十六歳です。しかしまだかくしゃくとしておりましたね。

式場 写真でも健康そうですね。

高橋 ええ、丈夫です。博士のおじいさんは百歳に四カ月足りないまで生きたというのですから、自分もそのくらい生きるつもりでいらっしやるのでしょう。それでえらいのは、全く老を知らない。ほんとうにかくしゃくたるもので、図体からいうと、先生よりも少し、一回り大きい人です。ごはんも私の倍ぐらいたべられる。私は前が悪いけれどもシュヴァイツァーは歯なんか一本も欠けてい

いい意味のワシントンですね。たとえば、ワシントンというのは家族に敵しい。家族というものはいわずにシュヴァイツァーの勤務員ですが、向こうでは勤務員と援助者というのです。それからお客様というの訪問者に分かれるわけです。野村先生はお客様でしょうね。それから日本人で勤務員としては私と家内が最初だと思います。それで勤務員には敵しいのです。とても敵しい。敵しいけれどもまた反面非常に愛情がある。私がおんこ帰って参りますときに、一日の生活費がどのくらい、ブライズビルでは自分の知っている教会の牧師がいるからそこへ行って泊れとか指導する。それからシャツは何枚、パンツは何枚、靴は二足は持って行けという具合で、それで高橋は何月何日はどこに行くということを目記に書きこんでいる。そういうところを見るとワシントンであるけれども、大へん慈愛に満ちたおやじであるとも思います。

式場 なるほど。

高橋 先だって私がラジオ放送か何かしたときに、シュヴァイツァーは蚊を追うだけで殺さないといったのですよ。そうしたら、それを聞いた方から向こうでは蚊も害虫じゃないかというのですね。それを電話をかけ

てきて、今から行ってもいいかというのですがね、夜おそいし、私寝ているから電話でナむならそれですまそうといったのですね。明らかに害虫だから殺さないかというのですね。私は返事に話ったのですが、私はこう考えるのです。私たちの皮膚に接するから害虫なんです。殺しなければ一つのりっぱな生物ですから、私たちが防止手段を講じれば害虫としないでいい、だからシュヴァイツァーは蚊を殺さない。それが彼の思想ですね。

式場 小泉八雲がそうですね、ノミも蚊も殺さなかった。ついたらがまんしている。そのころは日本にマラリアもなかったでしょうが、ほんとうに虫を愛した。この次に生まれるには何に生まれたかときかれたら、トンボになりたいといったそうですね。

高橋 そうですか、一茶のようですね。その意味から私は一茶を調べたいし、一茶の作品を読んでシュヴァイツァーと比較しようと思っているのです。

核兵器反対と日本への同情

式場 日本のごときは、シュヴァイツァーはどんなことに興味をもっていますか。

高橋 興味というよりも同情ですね。たと

ない。ごはんは私の二倍で、それで早くて、私が終わるころにはとくに終わってしまっているのですよ。

式場 奥さんはもういらっしやらないのですか。

高橋 一九五七年に、亡くなったのです。

式場 奥さんもアフリカに行っていたらいいかったですか。

高橋 行ったり来たりしておられたのです。一九一三年に初めてアフリカへゆく前の年には、看護婦の資格をとって、それから麻酔を受け持って、若いころはさかんに内助の功をやったのです。しかし、夫人は一人娘のレーナを養育することに専念し、晩年はほとんどランバレーネに米られなかった。死ぬ前の年ですか、たしか五六年のクリスマスのあるころに行つたのが最後です。それで五七年の六月の末に亡くなったのです。

厳しさと慈愛に満ちたワシントンおやじ

式場 さつきワシントンとおっしゃったが、よくそういうことが伝えられてもおりませんが、接して見られて、それは世間的なワシントンと違う意味がわかるでしょうか。

高橋 やっぱりほんとうの意味というか、

えは日本に対して、これほどすぐれた人間がおったのが負けたことに対する同情ですね。

それは一に、原爆——科学の進歩が非科学的になつてしまったことへの悲劇ですね。これに対して絶大な同情心をもっているのです。これは私たちの想像以上ですね。こういうことがありました。一九五八年にオスローの放送局に行つて、全世界に彼の核兵器反対のアピールがあったわけですね。これがたしか四月二十二日から二十三日に放送するはずだった。日本はそれに先立って四月十九日、一斉にジャーナリズムがラジオ放送するようにということでは日本はそうしたわけですね。これは私はやっぱりシュヴァイツァーが日本をそれだけに思つて下さつたりつばな監視じゃないかと思ひます。ですからこんどのことも(ソ連の核爆発実験)シュヴァイツァーは日本のためにも一言きつとあると思う。シュヴァイツァーは、「それは遣使があつて手紙々々まで及ぼすということを目の前にして知っているのは日本の婦人だ、だから日本の婦人はどうかどうか声を大にして叫んでくれ」と思っているのです。